

平成27年度第2回新名取市図書館施設整備検討委員会議事録

会議名	第2回 新名取市図書館施設整備検討委員会	
日時	平成27年7月16日(木) 15時00分～16時40分	
場所	名取市図書館 南館	
出席者 【11名】	委員4名	早川光彦、長沼明子、下澤なおみ、大野千春
	アドバイザー	岡本真
	事務局4名	生涯学習課 佐竹忠仁課長、佐々木賢一課長補佐 図書館 柴崎悦子館長 西山真喜子司書
	説明員2名	増田復興再開発推進室 松原妃主事 (株)山下設計東北支社 大平順子主任
欠席者	委員6名	志賀保史、天間環、佐伯幹子、板橋正春、福岡澄絵、三塚玲子
傍聴者	なし	

1 開 会

◎事務局

定刻になりましたので、平成27年度第2回新名取市図書館施設整備検討委員会を始め
てまいります。

会議前に会議成立の確認をさせていただきます。新名取市図書館施設整備検討委員会
設置要綱によりますと、会議出席者数による定義は特にございませぬので会議は成立と
なりますが、今回事務局から各委員に会議開催通知を送付しなかつたことから委員4名、
岡本アドバイザーの出席となつており、6名の委員が欠席となつてしまいました。お詫び
申し上げます。

なお、この会議は名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により公開
の対象となります。本日も傍聴席を設けておりまして、傍聴者0名でございます。

また、非公開となるような議事の予定はしておりませんが、非開示情報が含まれる場
合は、会議に諮り決定していただくことになっております。

なお本日の会議録につきましては、名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第9条
の規定により、市政情報コーナーで会議を開催した日が属する年度の翌年度の4月1日
から起算して3年間、閲覧に供される他、インターネット上、市のホームページに1年
間公開されます。公開時の名前は、名字 ○○委員と表記されますのでご承知願います。

それでは開会にあたりまして、早川委員長様よりごあいさつをお願いいたします。

2 あいさつ

◎早川委員長

新図書館の進行状況ですが、まあまあ順調で一つ一つ形に近づいているのではないかと
考えています。これからは今までよりも具体的なゾーン構成から家具の計画等、事務

局から説明があると思いますが、前にもお話ししましたように建物もそうですが、建物と同じぐらい家具も重要で、震災の時も図書館の家具を甘く見ていた図書館は相当に被害が大きくなったことが報告されています。福島県内でもほとんど被害の無かった図書館と、大変な被害が出た図書館に分かれたということが報告されております。

それで図書館の中の雰囲気を決するのは家具で、非常に重要になりますのでたくさんの方をお迎えするのに足りうるような、皆さんに満足いただける家具を実現できればと思います。

以上で私のあいさつとさせていただきます。今日もよろしく願いいたします。

3 前回会議の報告

◎事務局

それでは前回会議の報告ですが、研修会を行ったということですので報告は省略させていただきますと思います。では早速議事に入りたいと思います。早川委員長、議事進行をお願いします。

4 議事

(1) 2階フロアスペースの検討について

◎早川委員長

それでは次第に従いまして進めてまいります。資料が配られていますが、議事の(1) 2階フロアスペースの検討について、事務局から説明をお願いいたします。

◎柴崎館長

それでは2階スペースフロアについて、説明に使う資料の確認をさせていただきたいと思うのですが、1枚目「児童スペースの設備等の考え方」、2枚目「2階フロアゾーニングの図面」、3枚目「2階フロアゾーニングを拡大し写真イメージが入ったカラーA3図面」を使いながら説明させていただきたいと思います。

では2枚目資料のゾーニングの確認をしたいと思います。資料を見ていただきたいのですが、2階フロアは総合カウンター等ありますが、大きく分けると児童スペース、ブラウジングコーナー(新聞・雑誌)、カフェコーナーというゾーンとなっています。

児童、ブラウジング、カフェといったそれぞれのスペースについて、図書館として考えている設備等の考え方について、それぞれ説明してまいりたいと思います。

説明が終わりましたら、委員の皆さんからご意見、ご要望やご質問を受けたいと思いますので、よろしくをお願いします。

では児童スペースの設備等の考え方です。カラーの A3 資料を開きながら見ていただきたいのですが、児童スペースのコーナーは書架、閲覧スペース、おはなしのへやに児童用トイレや授乳室等を含めて考えています。

それでは授乳室からまいりたいと思いますが、設備はおむつ替えができるベビーベッド、荷物置き、椅子を入れるつもりでおります。水廻りについては、授乳室の中には設けないつもりでおります。

床の仕上げはビニール床式、壁は塗装で、天井は防音効果のあるロックウール化粧吸音板という穴の空いているものと聞いておりますが、赤ちゃんが泣いてもうるさいのではないかというような、外部への配慮をなるべく軽減できるようにしたいと考えております。

それから児童用トイレは、幼児用小便器 1 個、それから大便器はいろいろなタイプがあるようですが、赤ちゃん用ではなく幼稚園くらいのお子さんが使えるような便座・大便器を 1 個設置したいと思います。

それからおもらし等でお着替え必要になった時に使える着替え台を設置したいと思います。

それから手洗い・鏡ですが、子どもが使うことを考えて高さを考慮したいと思っています。

床の仕上げはビニール床式、壁が塗装で、天井が化粧石膏ボードになっております。

次におはなしのへやなのですが、床の高さを 10 cm から 15 cm 程度高くして入るようにしたいと思います。ずっと前の図面よりも、若干面積を小さくしたのですが、前回 6 月 25 日の研修会の時にも説明させていただいたのですが、この面積でも 35 m² くらいあるので、日常的に行うおはなし会では十分な広さだと考えております。

おはなしのへやの床の材質ですが、図書館によって本当にいろいろでカーペットやコルク材だったりいろいろありますが、名取市図書館の場合、赤ちゃんから使うということを考えるとおもらしや飲み物をこぼすといったことが考えられます。今のどんぐり子ども図書室での寝ころびできる所を見ていただくと分かるのですが、結構汚れています。ですからやわらかいコルク材のように、カーペットより手入れがしやすく、温かみのある材質をこのへやの床に使いたいと考えています。

それからですね、おはなしのへやの中に収納庫を設けたいと思ひまして収納庫を付けておりますが、結構おはなし会をする時、大型紙芝居の舞台、絵本の舞台等いろいろな小道具が結構ありますが、そういうものをこの収納庫に入れておくと大変便利だと思いますので、収納庫を付けたいと思います。ドアは引戸を考えております。

それから壁面ですね。曲線を使っております、意匠的なものになりますが、丸い窓を互い違いにこの曲線部分に付けたいと思っています。それでお母さんがおはなしのへやにいて、お子さんだけトイレに行かせるというシチュエーションも考えられますので、

そういう時に子どもの様子が見えるように、トイレの前の通路の辺りまで窓を付けたいと思っています。

それから照明はおはなし会の雰囲気に合わせて調光ができるようなものを考えています。この照明は、書架・閲覧スペースの照明とは雰囲気が違ったものにしたと考えています

次に書架・閲覧スペースの説明になります。ここは6月25日にお話ししましたように床はフローリングになります。またここに入れる備品は書架、椅子、机、カウンター等がありますが、これらは全て木製にしたいと思っています。子どもが使いますので高さやデザインとか、子どもが楽しくなりワクワクするようなデザインの家具を入れたいと思っています。イメージしやすいように図面にいろいろな写真を貼り付けていますが、例えば一番下の自動車型書架には紙芝居を入れて使ったり、その隣の小さいお家の場合ですと、おはなしのへやは割と広く子どもたちは狭い所が好きなので、こういうものを置いて隠れて読めるようなものを入れてみたいと思っています。

それから机や椅子につきましては、写真にもあるように人参と兎のデザインのような、子どもが喜びそうなものやカラフルなものにするとか、検討していきたいと思います。

書架については、できるだけ面を見せたいので、面を見せられるようなものを入れたいと思います。本を入れる書架の高さはあまり高くないような、3段ないし4段の書架を入れたいと思います。まっすぐな書架もありますし、変化をつけるのに曲線の書架もありますが、これからどのような棚を入れるかこれから検討してまいりたいと思います。

それからどうしてもビルの中に入るといことで、太い柱が児童スペース内にもあるのですがこの柱を無駄にしないような形で、例えば柱を使って展示台を付けるようなものもありますし、子ども用の検索機を置いているという図書館もありますので、柱の部分も有効に何か使えるようにしたいと思っています。

カウンターは児童用のものを設置する予定なのですが、位置は2階フロアの中央あたりに設置したいと考えています。

児童スペースについては今のところこのような考えでおります。

続けてカフェやブラウジングコーナーまで一通り説明し、説明が終わったら質疑やご意見等を伺えればと思います。

ではカフェですが、中身のイメージ図は私も見つけられなくていたのですが、イメージとしては、他のスペース、児童スペースやブラウジングコーナーとは雰囲気を変えたいと思っておりまして、カフェはどちらかというとシックな感じにつくりあげたいと考えています。イメージ的にはブックカフェというものを持っていますが、図書館の中のカフェなのでこのスペースにも本を並べたいと思っています。

それで説明させていただきますと、床の仕上げはフローリングなのですが、先ほど言

いましたように落ち着いた感じにしたいので、他のスペースとは色を変えてダークな色調、飲み物をこぼして汚すということもあるので汚れが目立たないという意味もあるのですが、ちょっと大人っぽい雰囲気になりたいと思っております。

それから照明も他のスペースとは異なり落ち着いた雰囲気の照明にしたいと思っております。とは言ってもペンダント式の照明器具を設置すると、下にテーブルを置かなければならなくなり模様替えがなかなか大変になるので、雰囲気もよく模様替えも等しやすいような照明を今探しているところです。

それからテーブルや椅子、本を展示する展示棚を置きます。

このカフェコーナーでちょっとした講演会や読書イベントをしたいと思っておりますので、スクリーンとプロジェクターを付けておきたいと思っております。

それからこの手洗いというのは、保健所の指導により必ず付けなければならないというものですので、この場所に付けています。

それから飲食できるコーナーの他に厨房もあるのですが、厨房につきましては簡易的な設備を最初に入れておきたいと思っております。どこかに委託するようになるとは思いますが、とりあえずカウンター、システムキッチンを設置しますが、IH やガスコンロは入れません。IH については必要であれば委託先が持ち込めますが、ガスコンロは持ち込みも不可とします。湯沸かし器は付きます。作業台や子メーターも付ける予定です。

次にブラウジングコーナーについてです。新聞・雑誌のスペースですが、エントランスから入ってすぐのスペースになりますので、明るくて開放的でゆったりとくつろげる雰囲気のある場所というように考えています。床の仕上げはフローリング、入れる備品としましては新聞架、新聞収納棚、雑誌架、机、椅子を置くようになりますが、机や椅子の写真は一関の図書館のブラウジングコーナーの写真なのですが、このように一人ひとりがゆったりと腰かけられるようなソファ、あるいはたくさんの方が腰を下ろせるような長椅子であるとか、そういったものを入れる予定です。

新聞架や雑誌架についてはいろいろな形があるのですが、使いやすさ等を考えて決めていきたいと思っております。

以上が図書館で今のところ考えている設備等の考え方ですので、委員の皆さんからこういうものがあつた方が良くとか、こういうふうにつくったらどうか、というようなご意見等がございましたらお伺いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

◎早川委員長

では、今説明のあつた順番で進めていきたいと思っております。まず最初に説明があつた児童のゾーンですね。委員の皆さんからご意見をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

◎大野委員

写真がたくさんあってすごく具体的でありありがとうございます。聞くだけでは分かりませんので良かったのですが、特にいいなあと思っているのは柱を利用した検索機と書架の設置で、新図書館でぜひ活用できればと思います。あとテーブルと椅子について、3つお写真、赤ちゃんとかわいい人参・兎と温かみのあるパターンという3つのパターンがありますが、私としては人参・兎のタイプは止めていただきたいと思います。汽车ポップ等は子どもにも良いかもしれませんが、余分な装飾はいらないと思うのですがいかがでしょうか。テーブルのイメージは赤・青色のものか、もしくは白木でRのついたものが私個人の感想としてはお薦めかなと思っています。でもいずれにしろ木の温かみのある雰囲気がよく伝わっていますので、図書館職員の方がこれと思うものを選んでいただいたら良いのではと思いました。以上です。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。

◎柴崎館長

いいでしょうか。ちょっと説明し忘れたことがありますので。検討委員会の場でお話したことは無かったと思いますが、以前図書館で中学生と高校生のコーナーというヤングアダルトコーナーを児童スペースの一角にと考えていました。3階吹き抜けを取ったことによって面積が増えましたので、今回3階の図面はご用意しておりませんが、ヤングアダルトコーナーは3階へ充てたいと思います。ここの児童スペースはあくまでも0歳児から小学生までを対象としたスペースという考え方になります。

それからベビーカー置き場、ベビーカーで来館される方も結構いらっしゃるかと思いますので、あちこちに置かれないうように、このあたり1ヶ所に集約しようと考えています。以上です。

◎大野委員

このベビーカー置き場は、置き方にもよるのでしょうか、何台ぐらい置けるのでしょうか。

◎大平主任

大体2.5メートル×2.3メートルぐらいのスペースがありますので結構置けるのではないかと思います。

◎早川委員長

他に児童スペースについてご意見やご質問がありましたらお願いします。

◎大野委員

児童スペースは0歳児から小学生までが対象ということでしたが、今の図書館はスペースが狭いので子どもたちの学習はできない状態ですが、小学生が学習するのは可能になるのでしょうか。

◎柴崎館長

小学生向けの本をたくさん置きますので、小学生が学習のために使いに来るといことは考えられます。そのための閲覧用机を置きたいと考えています。

◎大野委員

多分この右下の汽車の奥に見えているのは、そういう感じのものをイメージされているということでしょうか。

◎柴崎館長

まだこれと決めたものがあるわけではありません。いろいろと考えられると思います。

◎早川委員長

私の方からよろしいでしょうか。いくつかあるのですが、まず1点目が新しい図書館ができると小学校の施設見学、調べ学習や総合学習で使い、またその回数が相当増えるだろうと想定されます。座席数については1クラスくらい来ても何とか座れる数の確保、ここが家具設計の腕の見せ所だと思われまじけれども、本がきちんと利用しやすい形で配置されるということと、座席数は非常に重要になりますので、先ほどご意見があった家具はあまりデザインにこだわるよりも、今の子どもたちは座っている時間が長くなってきていることから、機能性とクオリティの高い家具を入れることが重要かなと思います。あとは1クラスで来た時に、まとめてその子どもたちに説明するスペースは3階の方で考えられているのか、それともそこまでしないで児童スペースで集めてするのか、ということ想定されていた方がよろしいと思います。確実に増えると思いますので。

2点目としまして、写真のように児童用の本が入る家具ですが、子どもの本は大きさがまちまちなので、高さを隅々まで計算していかないと入らなかつたりすることが結構あります。私の経験からすると、今の子どもたちは本当に体格が良いので、4段をとつてもゆうに今の小学校3・4年生の女の子でも届くと思います。ただ高さの積算を間違ってしまうとこんなはずではなかったというようなことがたまに起きますので。

私のいた南相馬市では大人の棚より子どもの棚の方が実は2.5cm高いんですよ。ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、あの棚は子どもの大きな本、不成型な本を必ず4段必ず入るという高さで造っていますので、こういうところも大事かなと思います。

あと絵本の棚ですが、見本にあるタイプ、館長がおっしゃったように表紙をたくさん見せられるというのは非常に重要なことなのですが、問題はその棚差しで入るところがフラットだと非常に背表紙の字が読み辛いですので、ここは何らかの工夫をした方が絵本が活きると思います。斜めにするのはいろいろな方法が考えられますので、きちんとした設計で家具を造るところが重要だと思います。

次に3点目ですが、先ほど説明がありまして「オール木」というだけでも雰囲気良くなるだろうと考えます。お家型の書架ですが、館長がおっしゃったように子どもは狭い所が大好きなので、こういうのはすごく楽しいと思います。ぜひ実現していただきたいと思うのですが、日本のお家型の家具というのはものすごい中途半端なんですよね。お母さんと入れない、中で電気は点かないという代物です。もしやるのであれば最低お母さんと子どもが入って電気を点けて楽しめるようなものであると、非常に喜びが増すのではないかと思います。場所の問題はありますけれども、外国の図書館だと結構そういうのは見られます。実は私も岩手の図書館でそれを実現したかったのですが、あまりに開架スペースが狭くて実現できませんでした。分かりやすく言うと入りたくなるようなものを本格的に造ってしまうということですね。館長がおっしゃったように、子ども時はコーナー・隅っこが大好きで隠れられるような所を上手に造るところが、非常に楽しさを前面に出していけるのかなと思います。

柱の活用は腕の見せ所になるでしょうね。あんまり活用しすぎると、結構ゴチャゴチャに見えたりしますので。

繰り返しになりますが、委員からもご指摘がありましたように、子どもが座る所については配置と長く座っていただけるように機能的であることが非常に大事なところですかね。あとは遊びを打つところは大胆にやると非常に楽しさが出るのだろうなと思います。

私は岩手の図書館をつくった時に、一番図面を見たのは外国の図書館なんです。日本の図書館は参考にしたところはありましたが、いい意味で遊びと吸い込まれるように入ってみたくなるようなゾーンをぜひここでつくっていただければと思います。

◎大野委員

全国から名取市の図書館を参考にさせていただきました、というようなお声が聞けるよといいですね。

◎早川委員長

要するに家具の設計は緻密さと大胆さがいっしょなんですよね。子どもといっしょに

来たお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも長く居たくなるようだと思いますよ。名取市を参考にしてもらうという意見は私も大賛成ですね。

◎大野委員

子どもの目線はもちろん大事だし、子どもの安全面も大事ですけど、一人では来ないので付き添いの人にとっても居心地の良さは必要かもしれないですね。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。今のご意見も非常に重要だと思いますね。子どもは一人では来ないので、必ず大人と来ることになるので、その時は一定時間いることになり、大人が小さい子に絵本を読んであげたりすることにも使えますので、大人がいっしょに座るといふところも踏まえて家具を設計していただきたいと思います。

他に児童スペースについてありますでしょうか。

◎岡本アドバイザー

書架メーカーがそういったところに参考見積もりを取ったり情報提供してもらおうと思うのですが、ちょっと頑張っていただかないといけないかなと思っていて、その時に事例として出すのがいいのではないかと思いますのが、富山市の子ども図書館です。おそらく内装デザインに関していうと、最も今海外のレベルに近いところにいます。

ここは、乃村工藝社というミュージアムの内装デザインや商業施設の内装デザイン、仙台だとアンパンマン子どもミュージアムを手がけたところ。話題になった大概の商業ビル、スカイツリーといったところの内装デザインを手がけている会社で業界最大手の一つです。

乃村工藝社がつくっている子ども図書館は従来のものとは全くイメージが違います。実際に富山の子ども図書館の使い方をみると、入るとそこに異空間があるという感じで非常に興奮して使われています。名取と置かれているシチュエーションが近くて駅前のビルの空いたところに子ども図書館が入っています。なので建物そのものはある意味おもしろみも何も無いのですが、ただエスカレーターを上がっていくと、そこから違う世界が広がるという形で、今回どうしても建物、箱そのものには制約があるので、入ってきて中に来たら、この児童コーナーのところは少し気持ち的に盛り上がるような提案をなるべくメーカーにはしていただくのが良いかと思います。

◎早川委員長

はい、ビルの中ということで建物の制約は名取市もあるんですよね。今の岡本さんがおっしゃった中で特に重要だと思うのが、南相馬のように外に出て本を読めるといった

ことはやはりできませんので、建物の制約があるからこそ家具で勝負するということで、非常にウエイトが高くなりますね。私も今までのいくつかの委員会を経験していますが、名取市は非常に児童サービスに対する要求水準が高いと思います。それにきちんと応えていくには相当にクオリティの高い家具でないと、名取の皆様のご満足はいただけないのではないかと思います。そののところが踏まえて、レベルが高いということは非常に良いことでありますので、家具が人を引き込めるかどうかは鍵を握ると思います。そのためにはたくさんの図書館を見て家具の設計につなげられればと思います。

◎岡本アドバイザー

参考までに委員の皆さまが近くで見に行けるところでいうと、乃村工藝社さんが仙台近隣で手がけているのは、昨年リニューアルした楽天Koboスタジアムにあるイーグルスのショップです。またより近いところでいうと、lalaガーデンの内装一式が乃村工藝社さんです。ちなみに最近ですと、名取のイオンもそうですが、ずいぶんおしゃれにつくられていますよね。ひとりのショッピングセンターに比べると明らかに一日過ごしても退屈しないようなおしゃれさというのは結構あると思います。やはりあれぐらいの方が入ったところにうまくできて、かつ業者としても腕の見せ所だと思いますが、一方でブラウジングコーナーもありますので、そこと住み分けつつ、一角は子どもたちの好きにしているエリアというように、雰囲気からしても思わせるのが良いのかなと思います。

そういう意味では県内では角田市や白石市は子ども図書室の機能が充実していますが、これらを余裕で超えていくぐらいのものであった方がいいですよ。名取市の場合、今の子ども図書室の雰囲気がいいと思っている方はかなり多いと思います。子ども図書室に関しては、中途半端な仕上がりではかえって新図書館より現図書館の方が良かったと言われかねないでしょう。そうならないように、柴崎館長からメーカーには厳しく注文していただければよいのではないかと思います。

◎柴崎館長

よろしいでしょうか。ブラウジングと児童のスペースの間に間仕切りをつけるかどうかについてです。すっかり壁を造るか、もしくは少し上を開けるか、いろいろなものが考えられると思いますが、ブラウジングコーナーより人がそのまま流れて入るよりは、いったん何らかの形で仕切っておいた方がいいのか。すっかり見えない壁というのは私は考えてはいないのですが、透明な仕切りを入れて子どもが飛び出していないようにすべきか、しかしそれがあることによって邪魔になるのではないかと、思案しているところです。皆さんの意見をお願いします。

◎早川委員長

何かご意見はありますか。

◎長沼委員

岡本さんから仕切りについてのお考えをお願いします。

◎岡本アドバイザー

一般論からいうと、新聞のあるコーナーはシニアの方がよく利用されますので、ブラウジングコーナーは比較的高齢者層が利用することになると思われます。その傾向はこの先ますます強まると思われます。紙の新聞を読むという習慣そのものを持っているのは50代以上ぐらいしかいませんから、ますますこのスペースに来る方は高齢化すると思われます。そういう意味では、児童スペースの利用者である子どもたちとの年齢差はどんどん開いていくことになります

よく聞かれる話としては、子どもの声をうるさがる寛容ではない高齢者が増えているといわれ、それによって図書館職員がクレームの矢面に立つというケースは出てくるかと思います。そういう意味では仕切りを入れることが多少は救いになるのではないかと思います。ただし、ここに間仕切りを入れたところで、子どもの声をかき消せるものではないので、つながっている空間として捉えて、来館する子どもたちのほとんどは地域の子どもたちですので、地域の大人たちがその成長に関わっていく場であるという姿勢を取るのであれば、あえて間仕切りはしないというのも一つの手であると思います。

それと同時に、児童スペースの方でおはなしのへやを中心に何か催しものをする際のことを考えますと、簡易な間仕切りを入れて、例えば普段はシースルーで見えますが、完全に視界をシャットアウトされるようなやり方もあろうかと思います。

これに関しては、間仕切りを入れたところで音の問題は100%解決されませんし、名取市における世代の違う人間同士がどう関わった方がいいのか、あるいはそこはシャットアウトしてお互いの世界を分けてしまった方がいいのか、この地域においてどちらの方が望ましいかということになろうかと思います。

それらを踏まえていうと、この地域のこの人口規模であれば、少々トラブルがあっても利用者が行き来できると良いと思います。仙台と違って顔が見えている関係ですので、そこで憤っているおじいちゃんがいたところで、周りからどこのおじいちゃんだと思われるわけですね。

これはやはり仙台のような大都市であれば匿名性が高いからそうこともできるでしょうが、この地域であればさすがに抑止力が働くのではないかと思われます。それよりもむしろ小さなお子さんとシニアの方とのふれあいが生まれるような形にした方が良いのではないかと思いますね。

◎大野委員

よろしいでしょうか。騒音の問題について、私は通勤族であちこちに住んだのですが、上の部屋の方から朝の 8 時半過ぎに突然ドスンと音がするんですよ。なんなんだろうこの家はとっていたのですが、それがあの日テレビを点けていたら、子ども番組で体操のお兄さんがジャンプするのと合っているんだと思ったら気持ちが 180 度変わったことがあります。なので見えている子どもが騒いでいれば、コラッとすることもできるし、小さい子がいたんだなと思えるし、間仕切りまではしなくてもいいのではないかなと思うんですね。

まるきり見えないところからやってきて、自分が読書している、ブラウジングしているのを中断や邪魔されるような気持ちになられるのかもしれないので、私としては岡本さんがおっしゃったように、見えて何かの時だけ見えないようにすることが、ある程度そこに固めの書架を置いて、何となくお互いに子どもの空間と分けるような感じだけでいいんじゃないかなと思いました。

◎柴崎館長

そうですね。音の問題については、2 階のフロアはそもそも賑やかなフロアということで、少々子どもが騒いでも大人がしゃべっても許されるようなフロアという考え方ですので、さほどの問題ではないと思います。

私としましては安全面から少し考えたわけなのですが、お母さんが小さいお子さん 2～3 人連れてきても、間仕切りがあることでうるさい子が児童スペースから出ていかなくても済むのではないかとか。

図面で見ると分かりづらいですが面積では 300 m²ぐらいありますから、今の子ども図書室の 2 倍以上になりますので、結構広いスペースになります。ここで喜んで走り回って外に行ってしまうということも考えられなくもないと思ったものですから、ここに間仕切りがあった方がいいのではないかと考えたわけですが、ただ向こう側が見えないというのは如何なものかと思っていますので、ここからこの柱あたりまで付けてもいいのではないかなと思いました。

◎岡本アドバイザー

安全対策の観点からすると確かにそうですね。親御さんが常に子どもを見ていただけるわけではありませぬので。一番怖いのは連れ去りですね。ブラウジングコーナーは結構人の出入りがありますし、貸出しじゃないのであまり気にも留めないということもあるかと思っています。

間仕切りとしては可動式にするか、衝立にするか、吊りガラス等を入れて、一応お互

いが見える形にして、場合によってはそこにカーテンを引けるようにするというのが考えられます。そこはやはり安全性をどれくらい考えるかということですよ。

◎下澤委員

イメージがつかないのですが、他の図書館の例はありますか。

◎柴崎館長

一関の図書館にあります。入って右側で子ども用のカウンター後ろのところで、腰壁上がガラス張りになっていたと思います。

◎下澤委員

実際に見に行っていないので分からないところがあるのですが、上の部分だけガラス張りになっているということでしょうか。

◎柴崎館長

床から上までガラス張りだと危険な感じがするので、腰あたりから上の部分といったところを考えています。

◎岡本アドバイザー

やりようによっては壁面を無駄にしないために本を置けるような形にした上で、子どもにとって目の高さより上の部分がガラスになっているというものは、意匠的には十分できると思いますね。

◎早川委員長

南相馬の図書館にも設置しています。子ども図書館が半独立しているということはありませんが。ただ名取市の場合、子どものコーナーとしては結構広い部類に入ると思います。

◎柴崎館長

おはなしのへやを抜かして児童スペースが大体 300 m²くらいあると思います。

◎早川委員長

広いですね。では私の方からよろしいでしょうか。

まず仕切りを付けるメリットですが、子どもコーナーだということが分かりやすいという点が挙げられます。子どもは楽しい空間に来ますと走ったりしますので安全面から

してもプラスになるだろうと思います。それは先ほど皆さんと岡本さんからありましたように、仕切りを付けても付けなくても音については大しては変わらない、完全に仕切ってしまうのであれば音が外に出ないようにできるかと思います。

子どもの安全面と、子どものためのコーナーですよといったように誰が見ても分かりやすいといったところが良いところかなと思います。

あとは雰囲気づくりにも若干プラスになるのかなと思います。

次にデメリットですが、私は相当あると考えます。まず一般的に使うのが、仕切りができますので、例えば小学校2年生くらいのお子さんお父さんお母さんが来て、2年生くらいだったら自分で本を見て、その間親御さんは雑誌を見ているというのはよくあるパターンなのですが、その場合は仕切りがまるっきり無い方が行き来しやすいということになると思います。行き来の点でしづらくなるということですね。お父さんの場合、新聞記事のチェックのためブラウジングコーナーにいる場合は見えていた方がプラスになるのではないかと考えます。

あとは職員の動きの点ですが、コントロールデスクの配置が非常に難しくなると思います。要するに仕切りを入れることによって、職員の動く効率が落ちると思います。図書館の資料というのはいろいろな使われ方をしますので、職員がそのサポートとして全方位的に動かなければならないことが多々あることからするとデメリットになると考えます。

3点目としては、広い空間だという感覚が無くなってしまおうと思われます。私は誘い込まれるような空間をつくることに重点を置き、仕切りは原則的に無い方が魅力的なのかなと考えます。

仕切りについては非常に難しい問題ですが、先ほどありましたように家具の配置で柔らかな結界を見せるということも可能ではないかと思ひます。

◎柴崎館長

確かに行き来はしづらいというのはあるんですね。階段がここにあるということは、児童スペースにいる人が上に行きたいとなったら、ぐるっとまわる必要があるということが出てきます。

◎早川委員長

家具の配置の工夫で柔らかい結界みたいな役割を果たすと思うんですね。柔軟に動けた方がプラス面が大きいのではないのでしょうか。図面のこの線は仕切り線でしょうか。

◎柴崎館長

ゾーニングとしての考え方を示したのですが、仕切るとしたらこの線ぐらいになる

のではないかと現時点では漠然と考えています。ただ、仕切ってしまうと行きにくいといえは行きにくいです。

◎長沼委員

館長が心配されるように、子どもは広い所を走りたくなると思います。

◎柴崎館長

自分の子どものことを思い出していたのですが、確かに走っちゃうかなと思うんですね。そういう心配はあります。迷ってしまって結論が未だに出せていないです。

◎早川委員長

この件は結論急ぎますか。

◎柴崎館長

急ぎます。ただ早川委員長がおっしゃたように、階段のところと残りの部分を家具配置によって結界のようにできるのではないかという思いもあります。

◎早川委員長

新館がオープンしてから本や書架の配置について、オープン前には想定していなかった利用形態を見せることがあるんですよ。近隣市町村からの来館者がとても増えると予想されます。例えば岩沼ですよ。とても良い所に位置しているので、しかも駅の目の前ですよ。となると来館者が相当数増えることは想定されるわけで、そのことを前提で考えての方が良いと思います。

子どもが走るということが挙げられていましたが、南相馬でも子どもは思いっきり走ってしまっていて、それほど気にされなくても良いのではないかと思います。ここはかなり広いので、仕切られていたとしても知らないうちに元気のいい子どもは児童スペースから出て行ってしまおうと思います。また出て行ったとしても、コントロールデスクがありますので、そこでカバーするという事も考えられると思います。

仕切りをつくって見えなくしてしまうのがもったいないなとは思いますが。

◎柴崎館長

確かに児童用カウンターで声掛けできるということも考えると、さほど心配しなくても大丈夫だと思えてきました。あとは家具配置で工夫することとし、仕切りは無しということを進めてまいりたいと思います。

今日は委員さんが3人の出席ですので、来週早々に他の委員さんに説明して、ご意見

を伺って早急に決めたいと思います。

◎岡本アドバイザー

あくまでも間仕切りというよりは、ゲートといいますか、ここからが子ども図書館ですよと象徴的な入口を示すような、ある種衝立のようなものがあるだけでも良いと思います。

さらに危ない要素があるとしたら、子どもが階段の方に行ってしまう時ぐらいで、早川委員長がおっしゃったようにある程度物の配置でカバーできる部分があって、同時に入ってきて子ども図書館だとすぐに分かるような、大きな看板的なものがあると良いと思います。実は先ほど申しあげました富山の子ども図書館がそのようにしています。

富山は同フロア内に駅前図書館があり、全体のコントロールをするカウンターがあって子ども図書館があるのですが、ここに子ども図書館という大きなサインがあるわけですね。その脇を抜けて図書館に入っていくという感じになっています。

従いまして、こちらの不必要なブラウジングコーナーから不必要な児童スペースへの流入を防ぎ、見た瞬間にそこは子ども図書館だと分かり易くするぐらいでちょうど良いのではないかと思います。後でその写真を館長に送ります。

◎早川委員長

そうですね。大きいサインを作るというのはなかなかいい案だと思います。子ども図書館が分かり易くなる、と同時に柔らかな敷居の役割も果たすという両立ができれば、すごくいいのかなと思いますね。

それでは、児童コーナーについてはよろしいでしょうか。

次に資料 2 枚目のカフェコーナーに移りたいと思います。確認も含めて説明をお願いします。

◎柴崎館長

私からよろしいでしょうか。設備ではないのですが、実はこの前の研修会終了後に、今日はいらしていないのですが板橋委員さんから、カフェに本を持ちこんで飲みながら過ごすというのは賛成できないというお話をいただいたのですが、図書館としましては、貸出し用の本というのはある程度汚れるということを覚悟の上で貸出しをしております。皆さんも本をお家に借りて行って、読まれる時は飲み物や食べ物がそばにあたりするような環境で読んでらっしゃると思いますので、汚れてしまうというリスクはカフェに限らず出てきますし、その部分について特に心配はしておりません。本当に大事で汚されては困るような本については、禁帯出扱いとして持ち出しできないようにしていますので、図書館としましてはカフェコーナーで本を持ってゆっくり読むことがで

きるようにしたいと考えています。

◎早川委員長

そここのところは図書館を利用される方がマナーを守るというようになるとと思います。

仮に図書館で借りた本をカフェに持ち込んで汚されるケースが多いという事態になった場合は、それなりの声掛け等で十分対応できると思います。

昔の図書館のイメージが強いと、どうしても飲み物を飲みながら本を読むというのはけしからんというものはあるのかと思いますが、名取市の新図書館はきちんとマナーを踏まえた上でカフェを実現していくということによろしいのではないかと思いますね。

◎長沼委員

手を洗ってから借りた本を読みましようと言われたような世代の方ですと、カフェに借りた本を持ち込んで読むというのは、やはりとんでもないという気持ちになると思います。

◎早川委員長

今の部分を前提としてご意見をお願いします。

◎大野委員

私はカフェコーナーができるのを楽しみにしています。

◎柴崎館長

すみません。一つ追加させて下さい。カフェコーナーと図書館側との間仕切りを付けないで、植栽や素敵な家具を配置することや床の色を変えることで、どこからカフェコーナーなのかが分かるようにしたいと考えています。

◎大野委員

植栽を置くとすれば本物を考えているのでしょうか。それとも別の物を置くのであれば、昔の保健室にあった布のかかった衝立のように、もっとおしゃれなものを配置するというのはどうでしょう。今は枠が木製の物もあるようですが、そういったものも良いのではないのでしょうか。

◎柴崎館長

植栽を置くとすれば手入れのことを考えると本物は考えていません。いずれにしましても簡単に動かせるようなもの等で検討したいと思います。

◎早川委員長

植栽の手入れに関してですが、全く大変ではないですね。南相馬では屋上の至る所に配置していて、あのぐらいあると大変ですが、屋内に置く程度であれば管理は大変ではないと思いますし、むしろ少し緑は必要ではないかと思います。ビルの中ですから少し潤いがあった方が良いでしょう。

◎大野委員

以前私がいた勤務先は、寒暖差がとても大きくて、夜のうちに冷えてしまったり、逆に昼間は気温が高くなったりだとかあったのですが、今はビル全体を空調するのでそういうことは無いのでしょうか。

◎早川委員長

そうですね。空調・湿度管理はどのようになっていますか。

◎大平主任

暖房等は自動的にある程度加湿も行いますので、植物が枯れるようなことは無いと思います。

◎早川委員長

最新式の空調は入ると思いますので大丈夫だと思います。今の仕切りの件につきましては、可動できるようなものの対応やフロアの色を変えるということによろしいでしょうか。

それと板橋委員のご心配とは別なのですが、図書館のカフェで不満なことが、この写真ぐらいのクオリティが無いカフェコーナーが多いということなんです。取ってつけたようなものではなくて、この左上の写真のカフェはなかなか良くできてると思うのですが、カフェと本が一体になっていますよね。

例えばご理解をいただけるのであれば、図書館の本や情報コーナーの一つとして観光パンフレットをここに置いてしまうことができれば良いのではないのでしょうか。

市外から来た方への名取市をPRするものをここに置いておく、大胆に図書館の本の一部をここに置くということも可能なのかなと思います。そうしますといかにも本のある中でお茶を飲んでいるというようなことが実現できれば、なかなか素敵な空間になるのかなと思います。

◎柴崎館長

図書館の中のカフェなので、本をいっしょに置きたいという思いがあって資料を懸命に探したのですが、なかなか見つからなくてこの写真を載せてみました。

◎岡本アドバイザー

この左上の写真は鯖江駅2階にある「えきライブラリー」ですね。ここは確かにかなりおしゃれです。置いてある本は図書館の本です。図書館の本の貸出しもここでできます。鯖江市の場合は分館がありますが、事実上駅前分館という形です。ここは今風のカフェっぽいですね。カフェもいろいろ世代がありますが、比較的今最も若者受けする感じの内装でよく考えられていると思います。これは目指すところの一つではないかなと思います。

もちろん武雄市の図書館のスターバックスみたいなものもありますが、スターバックスはかなり良い家具を使いますので、全体を整えないと上手くつり合いが保てないところがあるわけですね。

そういう意味で、ここは程よく白黒基調で落ち着いた感じが出ているというところが良くできていると思います。

◎早川委員長

今岡本さんがおっしゃったとおりに、柔らかに表情を変えて、かつ一体感のあるようなカフェが実現できれば素敵だなと思いますね。

南相馬の開架が、東・中・西という感じで柔らかに表情を変えているのですが、そのように実現できれば図書館らしいカフェ、カフェが活きる図書館として実現できれば、皆さんもご満足できるのではないかと思いますね。

ある程度落ち着くということも必要ですし、それとオープンすればここでいろいろな打合せをされる方は必ずいますからね。図書館のカフェというのは結構打合せに使われるんですよ。ちょっとした打合せにはとても向いていますので。そういうことも踏まえて実現していただければと思います。カフェについてはこれでよろしいでしょうか。

では次に進みます。ブラウジングコーナー、主に雑誌・新聞コーナーについてですが、その前に現時点で音声・映像資料は2階に配置するのか、3階に配置するのかを確認させて下さい。

◎柴崎館長

今のところ、2階に配置することを考えていました。

◎早川委員長

わかりました。ではブラウジングコーナーについてですが、かなりイメージしやすい

写真を付けていただいていますけれども、説明をお願いします。

◎柴崎館長

これという写真はなかなか見つからなかったのですが、新聞と雑誌の棚とソファがあるというものです。載せたイメージは一関の図書館です。黄色い椅子に座ってみました。隣に人がいないという配置なので、ゆったりと自分の世界に入れるものでした。

◎大野委員

一つお願いがあります。それは、私ではなくうちの家族が申しますには、シニア世代は図書館が大好きで、あちらこちらの図書館に行っているようなんです。それで彼らが言うには、新聞を広げて置けるスペースがあると良いとのことなんです。今の図書館みたいに一部でよいと思いますが。

◎柴崎館長

この写真には載せられなかったのですが、新聞を開いて読めるような台は考えています。一関はかなりスペースを割いてそれを置いていて、名取市ではそこまではできないかもしれないですが、新聞を開いて読めるような場所をつくりたいと考えています。

◎大野委員

よろしくお願いします。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。新聞専用台ではなく普通のテーブルで新聞を広げて読むというイメージでよろしいのでしょうか。

◎柴崎館長

新聞専用台ではなく、新聞を開いて読めるテーブルのことです。

◎早川委員長

このことについても非常に重要ですね。新聞を読む方は、図書館に滞在する時間が長いです。複数の方が新聞を広げて読めるということが、やはり求められているところかなと思いますね。

その他ありますでしょうか。

◎大野委員

やはり明るさがある程度必要ではないでしょうか。暗い、書齋のようなイメージのものではなく、そういうムードは減るかもしれませんが、明るさが必要だと思います。そういう意味で、宮城県立図書館の雰囲気について家族の評判は良くないです。

◎早川委員長

新聞を閲覧するテーブルについては、普通のテーブルで十分対応できますが、私自身の反省も含めて申し上げますと、雑誌と新聞コーナーは若干離れた方が良いと思っています。利用量の多い場所なのに動線が交差してしまうわけですね。

図書館は、新聞と雑誌はセットみたいに考えてきたのですが、新聞を読む世代というのは、大野委員がおっしゃったようにしばらくは減らないと考えられます。人口ピラミッドを見ると年齢構成でその後は若干減っていくと思われませんが、しばらくは減らないという前提で考えますと、離れた方がお互い資料を利用しやすいのかなというように感じたところがありました。そのことが1点目です。

2点目ですが、雑誌については館長もお考えだと思いますが、1回目はマガジンのように一般的に親しみやすい雑誌、2回目はジャーナル的なもの、というようにすみ分けも将来できた方がいいだろうと思います。特にジャーナルについてはバックナンバーを皆さんに提示できるような形にしておくべきだと考えます。日本の図書館の場合はそのところが非常に貧弱で、雑誌のバックナンバーが使えないということがありますので、調べもので書くときの参考になかなかしづらいということがあります。そのことを設計業者にきちんと伝えていただければと思います。

3点目として雑誌についてですが、雑誌の状況としてはたくさん雑誌が消えていって、たくさん新しく出てくる、そして全体的には少しずつタイトル数が落ちてきていて、一番売上を落としているのが雑誌という状況になってきています。今売上を落としているのは雑誌とコミックですね。ところがたくさん止めるのに対してたくさん出てくるのがおもしろいのですが、それが若干鈍っていくんだらうなと思っています。そういう状況ですが、相変わらず雑誌の魅力は大きくは変わっていないと言えると思います。

あとは図書館の方でもすでにお考えだと思いますが、ここにカフェのコーナーも含めて名取市の情報コーナーのような、いろいろなチラシやイベント等のお知らせをたくさん見ることができ、持ち帰ることもできるというようなここでの展開もお考でしょうが、そのための家具をきちんと造っていただきたいと思います。汚くチラシ等を置いているところがあるのですが、逆にマイナスになってしまいます。ここは名取市の顔ですので、パンフレット1枚置くにしてもパンフレットが活きるような、できれば木製のものがよろしいかと思っています。そこに行けばいろいろな情報が集まっているというようなことを上手く引き出せばより良いものができると思います。一人でも多くの利用者にお知らせすることが必要かなと思いますね。

あとは雑誌のバックナンバーが取り出しやすい形にぜひしていただきたいです。私は個人的に思うのは、どうしてこのような棚を未だに使っているのだろうかということなんです。理解できないんですよ。名取の場合は心配していないのですが、図書館の中には一時代前の考えの棚を平気で入れているところがあります。どこからどう見ても利用しづらく、バックナンバーが見えないためその都度開け閉めするような、子どもにとっても非常に危ない作りなので、上の棚にあるようにバックナンバーが見やすく、それ以前のバックナンバーはどこにあるのか、借りられるのか、一般書架と混配しているのかというようなことを含めて、分かりやすく利用しやすい棚にしていただければと思います。

◎長沼委員

よろしいでしょうか。ブラウジングコーナーはシニア世代の利用が多いと思いますけれども、私が東京に住んでいた時に行っていた図書館のシニア世代が集まるようなコーナーには常に椅子がいっぱいだったので、新図書館ではどのぐらいの椅子を用意するのでしょうか。

◎柴崎館長

現在点で数は正確に出していませんが、できるだけ置けるように工夫したいと考えています。今のところ全館で 250 席を想定していますが、なるべく多くの数をご用意したいと考えています。

◎早川委員長

名取市の立地からして間違いなく人は来ると思います。仙台市南部の図書館の状況はおそらく改善されないでしょう。もっと言いますと、一番名取市寄りの図書館の状況が良くないんですよ。ということも頭に入れながら、なかなかその分を名取市が引き受けるといっても難しいと思いますし、今度は逆に岩沼からの利用が増えることが予想されます。これまで岩沼の図書館に行っていた名取市民が、新図書館ができることによって相当数の人が戻ってくるのではないかと私は予想しています。

その他特に無ければ議事の（２）その他に進みます。

（２）その他

◎早川委員長

委員の皆さんから何かあればお願いします。

◎柴崎館長

本日の会議後についてですが、同じ会議は開けませんので、欠席した委員さんには個別に回って説明させていただき、ご意見を伺うという形にしたいと思います。

◎早川委員長

だいぶより具体的にイメージしやすくなってきました。今日、貴重なご意見をたくさんいただきましたので、後は事務局で家具を設計していくことになりますが、私のいた図書館でもこれでもかというぐらいヒアリングを積み重ねて家具を造りました。どのように使うのか、どのぐらいの人数を想定しているのか、各コーナー全部ヒアリングしています。コーナー毎にヒアリングをして、そこからスケッチを描いていったということをしてきていますので、名取市でも同じく今日出ましたので、お互いの理解の齟齬が生じないように、よく起こりうるものが図書館側では緻密に考えていても、それが理解されていなかったということがたまに起こったりしますので、そここのところもよろしくお願ひしたいと思います。

では議事は以上としまして、事務局に戻します。

◎事務局

事務局の不手際がありまして大変申し訳ありませんでした。

次回の会議は8月28日13時30分からを予定しています。場所は同じくこの南館になります。その次の会議日程はまだ決まっていません。委員長と日程調整した上でお知らせします。

では以上をもちまして閉会いたします。お疲れ様でした。